

文教厚生常任委員会報告

平成 30 年 8 月 28 日
委員長 吉住長敏

文教厚生常任委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、7月26日に教育部、27日には保健福祉部に対し関係部課長等の出席を求め委員会を開催いたしました。

教育部

教育総務課（1時間1分）

庶務係から、平成29年度古賀市教育委員会の点検及び評価報告書、学校閉庁日の実施について、施設管理係から、平成30年度学校施設整備の主たる工事等の進捗状況、台風7号被害、学校敷地内のブロック塀について、教育部長から、西日本豪雨の対応について概要報告。

委員から、学校閉庁日の周知徹底の問いに、十分に事前周知した。各学校へのエアコン設置を前倒すことへの検討の問いに、多額の費用が必要で財源の見通しが立たず、前倒しは厳しい。国の補正等動きがあれば乗り遅れず対応。7月6日の豪雨対応での課題はの問いに、避難所開設について、6時時点で何らかの警報が発令すれば登校させないなど一定のルール化の検討。避難所の運営の問いに、今は運営マニュアルはなく学校との連携協力の必要性、体育館に限定せず保健室、畳がある部屋、空調がある部屋の使用など反省点があった。学校グラウンド使用における社会教育団体の備品保管庫の状況の問いに、表示がない等の管理不十分な指摘もあり生涯学習推進課と調査・指導中。古賀東小学校プール横の越境した神社樹木の対応の問いに、懸案事項とし引き続き対応したい。通学路のブロック塀の危険個所の対応の問いに、指導権限がある県の建築指導課と連携し、6月の校長会で危険個所の情報収集を依頼した。今後現地確認を行い、県へ提出したい。夏場の学校トイレにおける臭い対策の問いに、夏休み期間中に尿石取り作業を実施。また、専門業者によるクリーニング等検討したい。

学校教育課（1時間34分）

学校教育課長から、不登校児童生徒数、学童保育所の入所状況、就学援助支給状況、古賀市中学校2年生職業体験学習「ドリームステージ」及び古賀市小学校5年生接遇マナー研修の実施、ALTによる英会話教室の実施について報告。

委員から、学童保育の指導員不足はの問いに、年度当初が賄いにくいものの確保に努めている。古賀東小学校における不登校児童数の急な増加要因の問いに、特別な事情の発生ではなく、これまでの不登校児童による欠席日数30日超過が6月に何人か出たことによる。学童保育における夏休み運営マニュアル等の検討はの問いに、古賀市学童保育所保育計画基底版を示した上で各学童から独自性を発揮したデイリープログラムを立てて運営。学童の子が夏休み明けにやめていく傾向の問いに、保護者の就労事情の変化や子どもの自立を考え、ある程度は家庭の中で過ごすことができ、また、児童センターで過ごすことで十分と判断する方も多い結果。あすなる教室のスペースは問題ないかの問いに、各室は手狭かと思うが、敷地が広く別にプレハブもあり上手に分けて活用。学童においての夏季の弁当の保管等取扱いの問いに、クーラーが効いた部屋に置くなど工夫。学童保育の地域コミュニティ委託の検討の問いに、本年6月に関係課で構成されたプロジェクトチームにより検討を開始している。夏休みのプール使用指導に関する問いに、暑さ指数が31度以上は利用中止。それ以下は水分・塩分補給等安全確保に配慮し利用することについて文書を発出した。生活保護基準変更による就学援助支給内容の問いに、今年度は変更は行わない。来年度は近隣自治体の状況も把握し対応。外国籍の方に対する対応の問いに、サポートする方に一緒に来ていただき窓口で対応。高齢者地域コミュニティと学校図書館利用の問いに、その面の連携は進めたい。行政視察来庁者に

よれば、関西以西において学校図書館の市民開放は古賀市のみという評価がある。給食費補助廃止の周知の問いに、学校を通じた通知を考える。ドリームステージにおいて商工会以外の料飲店組合等への声かけはの問いに、来年度以降考える。花見小学校のアジア太平洋子ども会議のニュージーランドの子ども受け入れの問いに、スクールビジット事業として福岡市以外で受け入れているのは、古賀市のみ。ここ数年で古賀北中学校区の小学校に来ていただいている。学校安全計画の策定の問いに、教育指導計画書の中に学校安全に関する指導全体計画を定めて進めている。

生涯学習推進課 (59分)

社会教育振興係から、平成30年度社会教育振興事業、リーパスプラザこがの利用について、スポーツ振興係から、クロスパルこが年間利用実績、こがっ子元気アップチャレンジ、地域ウォーキング事業、東京オリンピックルーマニア柔道チームのキャンプ地誘致活動、古賀市スポーツ推進審議会について、公民館係から、平成30年度コスモス市民講座(後期)について概要報告。

委員から、クロスパルこがの6月キャンペーンの効果の問いに、5、6月の19時から23時において安価な体験ができ好評を得た。7月以降はナイト会員に移行。都度利用に安価な設定をの問いに、プログラムの充実も含めて検討をうながしたい。歩いてん道整備の窓口の問いに、農林振興課。リーパスプラザこがの西側通路の飛び石に関する指摘に、利用者の安全を優先した形で対応。様々な案内サイン等改善すべきの問いに、建物が複雑な面もありさらに検討。交流館開設にともなう全体的なハード、ソフト面の評価等をまとめ将来に備えるべきではの問いに、市民体育館と中央公民館が築30年、図書館、歴史資料館が20年経過し共存しており、ここらで何らかの整理が必要と認識。8月からのコガバス運行のアピールの問いに、経営企画課と連携し対応。クロスパルこがの特色と利用振興の問いに、スポーツ施設にプール、風呂があること、各年齢に対応したプログラムをアピールポイントにしたい。地域公民館で議会報告会利用が断られた事例の問いに、一般的な市政の話、学習の場としては受けていくべき。ルーマニア講座の模様をの問いに、40人前後の参加で盛り上がった。スポーツ推進審議会委員の市民公募の問いに、今回はスポーツ振興基本計画策定が主で有識者を選んだ。

文化課 (48分)

文化財係から、文化財事業の進捗状況について、文化振興係、図書館係、市史編さん準備係の3係から、今年度事業報告、事業予定について概要報告。

委員から、アート・バスの開催回数の問いに、今年度に限り3回とし、来年度は増やしたい。セカンドブック事業の状況の問いに、3歳児健診でサンコスモ古賀に出向き、そこで9割ほど渡し、おはなし会の案内もしている。図書館の開館時間の延長の問いに、目下検討中。受付業務の委託方向の問いに、まだ提示できる状況ではないが委託には開館延長のメリットはあるかと思われる。暑さ対策で最適な図書館活用、地域の情報拠点、また、市民の暮らしに役立つ豊かな心を育てる図書館の活動目標の問いに、クールシェアで集まりやすい場所としてPRに努め、提案を参考に地域活性化に取り組みたい。係として位置づけられた市史発行準備の現況を憂うがの問いに、今後も停滞しないよう、スケジュールと市史の骨子について進めていく。

青少年育成課 (43分)

青少年育成係から、青少年育成事業、古賀市青少年支援センター事業、青少年体験活動、児童館・児童センター事業について順次、資料にもとづき詳細報告。

委員から、今年度の青少年支援センターへの相談内容の傾向の問いに、不登校、家庭、引きこもりが上位。非行はゼロ。相談来所件数の前年比減の内容の問いに、相談者の個別ケースで大きく異なる。メールは前年5件が32件と増加。異年齢の交流の問いに、コスモックス祭りで小学生が参加しやすい配慮、ししぶ児童センターでは夏祭りを子どもが計画している。寺子屋と通学合宿の今後の開設計画の問いに、今年度は千鳥チャレンジアンビシャス広場、古賀東小学校での放課後子供

教室などの地域活動を通じて広げたい。九州産業大学学外連携事業チビッ子大学とはの問いに、平成 28 年度から始まり、科学実験や工作などを行い、ボランティア学生 6 人程度の協力がある。青少年支援センター移転の評価はの問いに、中央公民館に位置し来所しやすいとの声もあり、場所としては一定の効果が出てきたと判断している。

学校給食センター（18 分）

学校給食センター係から、平成 30 年度給食提供事業及び食育推進事業の報告、食器破損状況及び地元農産物使用状況では古賀産が 32.7%等の報告。その他、所長から、給食調理配送等業務委託について、7 月末で 3 年契約が切れるため更新準備を今年 3 月から取りかかったが最終的には申請希望が現契約業者 1 者となり、厳正な審査により実績を重視。現契約業者の株式会社魚国総本社九州支社と契約する運びになった旨の報告。

委員から、第 3 子以降の学校給食費補助がなくなった件でクレーム等の連絡はあるかの問いに、一切無い。食器破損が 1%にも満たない状況なのに定型報告する意味合いとは等の問いに、センターが現在位置に移設した際にアルマイトから磁器の食器に変更したことで重量があり低学年を中心に破損率が十数パーセントあった経緯やロボットの誤作動で大量破損があったが、今はメンテナンスや講習により未然防止できている。給食委員会は意見が出しやすい工夫をしてはの指摘があった。

保健福祉部

予防健診課（1 時間 2 分）

健診指導係から、特定健診・がん検診等の受診状況、予防接種事業について、健康づくり係から、ヘルスアップぷらんの推進、自殺対策計画策定、ヘルス・ステーション設置状況について概要説明。その他、「平成 30 年度保健・健康づくり事業概要」の配布。

委員から、平成 29 年度特定健診受診率の問いに、平成 30 年 6 月末現在、法定報告ベースにおいて 32.2%で前年度 31.4%を上回っている。受診率アップ対策の問いに、電話勧奨、午後からの実施の試み等を検討。医療機関保有の検査結果情報提供の活用の問いに、特定健診受診を優先させ 11 月頃から本人の同意をもとに取り組みたい。赤ちゃんの時から予防接種勧奨の問いに、子育て支援課の健診、就学時健診の際に個別勧奨している。健康寿命延伸の取り組みの問いに、健康チャレンジ 10 か条を中心に取り組む。ヘルス・ステーション補助の今後の問いに、地域の主体的な取り組みが軌道に乗る経済的支援は 6 年間としたい。自殺対策の問いに、元気な人づくり検討委員会など庁内検討組織等により全庁横断的に進めたい。市の自殺者の傾向としては、国から地域自殺実態プロファイルの資料提供があり、平成 24 年度から平成 28 年度の 5 年間では 60 歳以上の無職の同居女性の割合が一番多いことが示された。

福祉課（59 分）

福祉政策係から、秋季戦没者追悼式、第 32 回健康福祉まつりについて、障害者福祉係から、障がい者就労等支援について、保護係から、生活保護の現況、生活困窮者自立相談支援事業について概要報告。その他、千鳥苑の指定管理期間である 5 年間が終了することに伴う次期の選定準備、千鳥苑研修室の天井からの湯漏れ事故発生について報告。

委員から、湯漏れ事故の要因の問いに、経年劣化による突発事象によるもの。障がい者就労の追跡調査の問いに、平成 29 年度は 17 人が就職し、うち 5 人が退職。そのうち 1 人が再就職したと確認。就労支援の職場体験の周知の問いに、各事業所で対応。就労支援セミナーは就労部会で企画・運営。2 市 1 町の事業所、市役所等にチラシ等を配布した。障がい福祉のガイドブックについて配布先の問いに、窓口での手帳の新規交付の際、団体総会の折りに配布。生活保護者の熱中症対策の問いに、エアコンの新規購入費用が一部認められた。熱中症予防及び対処法をまとめたチラシを 6 月下旬に保護受給全世帯に配布したほか健康支援員がケースワーカーと同行し呼びかけた。保護費

の支給方法の問いに、毎月1日のサンコスモ古賀での定例支給が50～60件程度、残り440～450件程度が口座送金という状況。校区の井戸ばた座談会の関わり具合の問いに、社協主催の中に適宜、福祉課も出席。

隣保館（17分）

隣保館係から、平成30年度事業として、地域交流促進事業、ひだまりパスポート（小学生対象異文化交流）、就労サポート講座事業、スタンドアローン支援事業の一環で古賀市議会議場見学と「選挙について学ぼう」について概要説明。

委員から、ひだまりパスポートについて応募者全員の受け入れについての配慮や模擬議会を検討してはの意見及びフィールドワークの内容の問いに、福岡市博物館において戦争中の展示物、防空壕体験を予定。異文化交流講座の大人対象の内容の問いに、韓国文化講座の講師以外はまだ未定とのこと。

介護支援課（1時間16分）

介護予防係から、「おでかけハンドブック」による高齢者外出促進事業、古賀市介護予防講演会、地域活動サポートセンター事業、しゃんしゃんの指定管理者募集について、包括支援センター係から、「寄って館」事業の状況、介護予防・日常生活支援総合事業の利用状況について、介護保険係から、介護保険サービスの利用状況、介護保険サービスの利用者負担割合の見直し、地域密着型サービス事業者の公募について概要説明。その他「介護保険べんり帳2018～2020年度版」の配布。

委員から、クールシェアなど熱中症予防対策の問いに、地域活動サポートセンターで緊急連絡先を整備。その都度の水分補給への配慮に心がけている。地域活動サポーターの参加者の問いに、34地域から238人が登録し動き始めているが地域間格差はある。安否確認緊急対応コール事業の進捗の問いに、平成29年度は100人程度、一人暮らしの70歳以上、約600円の自己負担で実施中。外出促進事業においてわくわく感への工夫、対策の問いに、地域によってはサロンへの誘い出しに使われたりしているように、企画、大枠組みは行政がやるが、どう使うかは地域との連携で上手に対応してほしい。地域包括支援センターの設置基準に関する問いに、包括支援センターは概ね30分で行ける範囲で1カ所、サテライト的に3カ所を置く自治体もある。古賀市も高齢化にあわせその必要性は高いかと思う。権利擁護の虐待内容の問いに、近年は本人の年金等をその子どもが管理し利用料金が支払われない経済的な虐待事案がある。本人の年金を保護する成年後見制度利用により対応中。介護保険サービス自己負担が3割負担の人数の問いに、48人。高齢化と介護保険利用を総合的にどう見るかの問いに、前期高齢者がやや多く後期高齢者が少ないことから、要介護対象が少ないのが古賀市の現在の特徴。介護保険サービス未利用者379人の意味はの問いに、住宅改修、福祉用具購入が含まれ、それらを終えた後は利用されないケースが多々ある。介護難民といわれる状況は古賀市ではあるかの問いに、施設入所で長期にわたる待機者の話は聞き及ばず、その状況は無いのではないかと思う。

子育て支援課（40分）

子育て支援係から、子ども・子育て支援事業、子ども・子育て会議について、保育・手当係から、保育所の入所、病児・病後児保育事業の利用状況について、子ども家庭係から、こども発達ルーム、係の相談件数について、その他、子育て世代包括支援センターの開設予定について報告。

委員から、こども発達ルーム委託のメリット、デメリットの問いに、集団指導の部分についてどの形がベストか関係職員と協議中。保育園における熱中症対策の問いに、各部屋に温度、湿度を計測することにより子どもの体調管理に心がけている。イオン水のある程度時間を決めて補給したり室内で遊ぶようにしている。

以上、議会閉会中の調査事項の付託案件について調査の概要報告を終わります。